教　育　委　員　会　会　議　録

令和６年２月　定例教育委員会		
開会日		令和６年２月２７日（火）
開会時間		午後３時３０分～午後４時２分
開会場所		佐賀市大財別館４－３会議室
出席者	委員	丹宗教育長　堤　委員　撫尾委員 鳥飼委員　長﨑委員　山田委員
	事務局	大松教育部長　横田教育部副部長兼教育総務課長　吉次教育部副部長兼学事課長　青柳教育部副理事兼学校教育課長　大塚教育部副理事兼社会教育課長　古田図書館長　北島文化財課長　川副教育総務課副課長兼総務係長　志津田教育総務課主幹兼教育政策係長
提出議案		第３４号議案　教職員の人事異動（管理職）の内申について
協議事項		な　し
報告事項		文化財の指定について
欠席委員		０　名
傍聴者数		０　名
報道関係者		１　名
会議録作成者		教育総務課副課長　川副　清隆

日程１　開会の宣告

（丹宗教育長）
それでは、これより佐賀市教育委員会２月定例会を開きます。
教育委員の皆様には大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
本日、佐賀市議会の２月定例会が開会いたしました。いよいよ次年度に向けての準備が本格的にスタートするというところでございます。教育委員の皆様におかれましても、ぜひ今年度の総括、そしてまた来年度に向けてのご意見等をいただければ大変ありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。
それでは、委員会に入ります。
本日は、６人中６人の委員が出席しておりますので、適法に委員会が成立いたしております。
ここで会議の非公開と日程についてお諮りします。
本日の議案のうち、第３４号議案『教職員の人事異動（管理職）の内申について』は、佐賀市教育委員会会議規則に規定する非公開事項「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」に該当するため、非公開といたします。
さらに、非公開とした第３４号議案の審議を日程６の「その他」の後とし、公開事項を先にご審議いただきたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

日程２　会議録の承認

（丹宗教育長）
それでは、日程２、会議録の承認です。事務局より会議録の報告を求めます。

（川副教育総務課副課長兼総務係長）
１月２３日の定例教育委員会の会議録につきましては、先日、皆様にお送りしたとおりでございます。よろしくお願いいたします。

（丹宗教育長）
報告は終わりました。報告内容に質疑ございませんでしょうか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
異議ないようですので、会議録は報告のとおり承認いたします。

日程３　教育長報告

（丹宗教育長）
次に日程３、教育長報告をいたします。
先月末から今月の行事につきまして、主なものを報告いたします。
まず１番、１月２５日に「佐賀市のこどもたちを見守る会」の発足式が行われました。これは、佐賀市の子どもの見守りサービスを後押しするために、佐賀商工会議所などが新たに組織を立ち上げ、その発足式が行われたものです。このサービスは、株式会社ｏｔｔａ（オッタ）が開発・運営するもので、子どもに端末を持たせることで子どもの位置情報が把握できるというものです。現在７つの校区に導入しておりますが、全小学校３５校に導入するための協賛金をこの会で募るということでございます。これについては後ほど学事課から補足の説明がございます。
２番目は、早稲田大学で行いました早稲田・佐賀２１世紀子どもプロジェクト事業報

告会です。
佐賀市教育委員会は、早稲田大学教育・総合科学学術院との連携により、小中学生を対象に大隈重信やふるさと佐賀への理解を深め、２１世紀を担う人材の育成を図る取組を行っております。早稲田大学を訪問し、昼食をとりながら、箸本健二学術院長・教育学部長、教職員出前講座の講師を務めていただいた三村隆男教授、大隈重信スピーチコンテストの審査委員長を務めていただいた幸田国広教授、三木省吾事務長、福地健太郎庶務係と懇談をいたしました。事業に対する大学による補佐に対しまして、私から感謝の意を伝えたところでございます。続いて１４号館に移動いたしまして、箸本学術院長、三木事務長、福地庶務係に対して令和５年度の早稲田・佐賀２１世紀子どもプロジェクトの事業の概要について報告をし、改めて感謝の意を伝えたところであります。その後、次年度の事業について意見交換を行いました。本年度の中学生出前講座では、ゼミ生４名が中学生のグループ討議に入り協働で課題解決に取り組んでもらいまして、生徒たち、そして学生からも好評であったということです。ゼミ生の旅費は、今年度は自己負担だったということですが、今年度の取組が好評であったため、来年度は大学からの支給に変更するということでした。また、学生ガイドの案内で大学構内を視察しましたけれども、図書館のスペースがかなり充実しているという印象を持ちました。
３番目です。九州都市教育長協議会第２回理事会が大分市で行われ、佐賀県からは嬉野市の杉﨑士郎教育長とともに出席をいたしました。議事が終わった後、意見交換会になりまして、①小中学校の統廃合について、②不登校児童生徒への有効な支援策について、③一人１台端末の持ち帰りの状況について意見交換を行いました。まず、①小中学校の統廃合については、学校の適正規模化、校舎の老朽化、そしてスクールバスの確保などの様々な課題がありまして、地域に丁寧な説明をして十分に協議していくことが必要であるというのが大方の意見であります。続いて、②不登校児童生徒への有効な支援策につきましては、各市も佐賀市と同様の取組を行っているという状況でしたが、中には不登校や不登校ぎみの子どもたちを対象とした学びの多様化学校の設置を準備している市もございました。そして、③一人１台端末の持ち帰りの状況につきましては、持ち帰りの頻度に差はあるものの、いずれの市も持ち帰りを推進しているという報告でございました。
４番目、宮崎市版「未来の教室」視察ということで、宮崎市教育委員会、宮崎市立大宮中学校、青島小学校を訪問いたしました。宮崎市教育委員会は、育てたい子どもの姿を「自分や地域の課題に向かって、他者と協働しながら、主体的・創造的に解決し、自ら未来を切り拓く子ども」としておりまして、テクノロジーを活用しながら「いつでも・どこでも・誰とでも」つながる学びを創り出そうとしています。視察した大宮中学校と青島小学校は、ともに授業時数特例校で、総合的な学習の時間に教科から少しずつ時間を融通し、総合的な学習の時間を年間１０時間程度増やしてあります。また、両校ともＳＴＥＡM教育のモデル校でございまして、大宮中学校は地域課題を探求的に学ぶＳＴＥＡM教育を中心に、青島小学校は自由進度学習の研究・実践を中心に進められているようでありました。両校とも児童生徒が主体的かつ協働的に生き生きと楽しそうに学ぶ姿が見られて、本市のこれからの教育を考える上で参考になることが多うございました。中学校では英語の授業、小学校では算数の授業を見学いたしましたけれども、子どもたちが本当に楽しそうに学んでいる、自分で考えながら学んでいる、そういう姿が大変印象的でありました。
５番です。第３回部活動地域展開会議ということで、部活動の地域展開について、①学校部活動の活動量・活動内容の見直し、②多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化、③地域型クラブの立ち上げ・運営に対する支援、この３つの方向性について討議をいたしました。事務局案に対して委員から様々な意見が出されましたけれども、進む方向については一定の理解が得られたと感じたところです。この５番目についても、この後、教育総務課から補足説明がございます。
私の説明は以上でございます。

では、まず学事課からの補足説明をお願いします。

（吉次教育部副部長兼学事課長）
それでは、お手元の「ＩＣＴを活用した「子どもの見守りサービス」について」という資料をご覧ください。
先ほど教育長から説明がありました、佐賀市の子どもを見守る会の発足式の件に関連いたしまして、ＩＣＴを活用した「子どもの見守りサービス」の進捗状況などについて補足説明をいたします。
資料１番のサービス開始エリアですが、昨年の５月に勧興と神野、９月に高木瀬と若楠、今年1月１５日に巨勢、兵庫、赤松の各小学校区でサービスを開始しておりまして、今年４月には循誘と北川副の小学校区でサービスを開始する予定です。
今後のサービス開始エリアについては、現時点では未定ですが、開発・運営する株式会社ｏｔｔａ（オッタ）が主導して見守りスポットの設置計画や整備を進めておられ、今の実施エリアから徐々に外へ拡大していくような形になると思われます。市の企画政策課や株式会社ｏｔｔａ（オッタ）と定期的な情報交換等を行っておりますので、引き続き利用者の声などを届けながら、令和７年度末をめどに市内全３５小学校区でのサービス開始を目指しております。
２番の「佐賀市の子どもを見守る会」の発足についてでございます。教育長から話がありましたように、佐賀市内を網羅する経済団体である佐賀商工会議所、佐賀市北商工会、佐賀市南商工会が子どもの見守りサービスの事業に対する協賛金の支援組織を設立され、１月２５日に市役所で発足式が行われております。発足式には、各組織の代表をはじめ坂井市長、丹宗教育長も参加されています。この会は、見守りサービスに必要な機器の設備を市内全域に広げていくことを目的に、整備に要する資金の調達や事業の啓発などについて後押しをしていただく団体になります。資料下には、この件に関する１月２６日付の佐賀新聞の記事を載せておりますので、ご覧いただければと思います。
補足説明は以上になります。

（丹宗教育長）
では、続いて教育総務課から補足説明をお願いします。

（志津田教育総務課主幹兼教育政策係長）
お手元にお配りしております「部活動地域展開会議だより」でご説明いたします。
先日２月１６日に第３回佐賀市部活動地域展開会議を開催をいたしまして、堤教育委員と撫尾教育委員にもご同席をいただいたところです。佐賀市の地域展開でめざす姿につきましては、「子どもが多様な選択肢の中から主体的に活動量や活動フィールドを決めて参加できる、持続可能な活動環境をつくる。」としており、佐賀市では、休日の部活動をそのまま地域にお願いをするといった地域移行という形ではなく、子どもたちの活動の場を地域も含めて広げていくという地域展開という形で取り組んでおります。会議では、先ほど教育長から説明がありましたように、大きな方向性を３つ示しました。まず１つ目の方向性として、学校部活動の活動量・活動内容の見直しについて、事務局から部活動ガイドラインの見直し（案）をお示しし、委員の皆様にご議論をいただきました。
見直し（案）につきましては４点お示ししました。１点目は活動量の適正化です。現在週１１時間程度としている部活動の活動量を週８時間程度までにするという提案をしております。週８時間程度という範囲内で、部活動ごとにどう活動するかというのを時間配分なども含めて考えていただければと思っております。
続いて２点目は子ども主体の自治的な活動への転換でございます。量の見直しと併せて質の見直しも進める必要があるということで、短時間の中で効果を上げるためには、子どもが自分たちで練習メニューなど考えながら取り組むことが必要ではないかと考

えております。
　３点目は顧問の関わり方の見直しでございます。既に複数顧問制などは導入をしておりますけれども、これに加えまして、例えば、グラウンドで活動する複数の部活動を、専門に関わらず複数人で輪番で指導・見守りを行うといった輪番指導制への転換を進めていくことを提案しております。
　最後の４点目は、合同部活動の設置促進でございます。現在、単独の学校でチームが組めないという状況が増えてきておりますが、そうなりますと、すぐに廃部や休部といった問題が出てまいります。複数の学校で継続的にチームをつくることによって、子どもたちの選択肢が増えるのではないかと考え、提案したところです。
　２つ目と３つ目の方向性は、多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化と、地域型クラブの立ち上げ・運営に対する支援でございます。子どもたちが地域の中でいろんな活動の場所を探せるように、市が市内のクラブの情報発信をする。また、部活動の地域移行という時代の流れの中で、保護者や地域の方々などで新たな受け皿を自分たちでつくろうといった取組も出てきておりますので、そういった取組について市がお手伝いをするといったことも考えております。このような提案をいたしましたところ、委員の皆様からはおおむね好意的なご意見をいただけたかと考えております。
　今後でございますけれども、来年度もこの会議を引き続き開催し、詳細について検討を進め、できるだけ早い段階で子どもたちや保護者の皆様に改革の方向性をお示ししていきたいと考えております。
　補足説明は以上でございます。

（丹宗教育長）
　ただいまの報告内容について、質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。
　　　　　〔「なし」と呼ぶ者あり〕
　質疑がないようですので、教育長報告を終わります。

日程５　報告事項

（丹宗教育長）
　続きまして、日程５、報告事項です。
　「文化財の指定について」、説明をお願いします。

（北島文化財課長）
　地域振興部文化財課から説明いたします。議案書の２ページをお願いします。
　佐賀市重要文化財（考古資料）の指定について報告いたします。名称は「築山古墳出土盾持人埴輪」、指定年月日は令和６年２月６日、所在地は現在保管しております佐賀市本庄町本庄の文化財資料館の住所を記載しております。出土年月日は平成３１年２月２５日、大和町尼寺の築山古墳、春日小学校の東隣になりますが、個人住宅の建設に伴う埋蔵文化財確認調査の際、発見されました。
　３ページの下には、出土した盾持人埴輪の概要を記載をしておりますが、５ページの埴輪の写真と実測図を併せてご覧いただければと思います。円筒形の人物像の前面に盾を張りつけているのが特徴で、腕は欠損しているため不明です。人物の顔には入れ墨と思われる線刻が施されております。これは魏志倭人伝に記されている倭人の種族「黥面文身（げいめんぶんしん）」を表現していると考えられます。また、顔と盾の一部に赤色顔料が残っておりまして、祭事用化粧の可能性もあると考えております。頭部は右の頭部が良好な形で残存していまして、写真では分かりにくいんですが、頭の上に巾９センチ程度の鉢巻き状のものを巻いています。正面中央部には切り込みが見られ、冠状の帽子を表現していると思われます。体の正面に持った盾には三角形や縦横に線を引いて装

飾が加えられています。正面に上部と左手側面が完全な形で残っておりますので、幅が約２８センチある盾だったと推定されます。

４ページに指定理由を記載をしております。佐賀県内で人物埴輪の出土例としては、小隈山古墳や岡寺古墳、上のびゅう塚古墳などがあります。岡寺古墳では盾の一部が出土しておりますが、盾持人埴輪は出土しておらず、築山古墳が初例ということになります。九州では、ほかにも出土例はありますが、いずれも円筒埴輪の両脇に帯状のものをつけた簡略化されたもので、築山古墳のように体の前面に盾をつけたよりリアルな表現をとっている形態というのは全国的にも少なく、さらに赤色顔料が塗られているということや、入れ墨の表現など、形象埴輪の形態のほか、当時の習俗や葬送儀礼を考える上で大変貴重な資料であるということから、佐賀市重要文化財に指定する価値を有するということで、文化財保護審議会の皆さまの意見をいただいており、手続を経まして、今回、佐賀市重要文化財として指定を行ったものでございます。説明は以上です。

（丹宗教育長）
ただいまの説明について、何かご質問ございませんでしょうか。長﨑委員。

（長﨑委員）
出土から文化財としての指定までに５年間かかっているのは理由があるんでしょうか。

（北島文化財課長）
形などを基に、ほかの出土例や模様自体の具体的な解析など、調査にどうしても時間を要しまして、結果的に５年間かかったということです。

（丹宗教育長）
ほかにご質問ございませんか。よろしいでしょうか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
では、ないようですので、本件についての報告を終わります。

日程６　その他

（丹宗教育長）
次は日程６、その他です。何かありますでしょうか。どうぞ。

（田中学校教育課参事兼副課長兼教職員係長）
学校教育課から、委員の皆様の机上に配付しております退職者感謝状贈呈式及び新規採用教職員辞令交付式並びに転入者等辞令交付式並びに新任式のご案内をお伝えいたします。

退職者感謝状贈呈式は３月２９日金曜日の１３時３０分から、新規採用教職員辞令交付式及び転入者等辞令交付式並びに新任式は、４月１日月曜日の１５時と１６時を予定しております。場所は大財別館の４階会議室でございます。年度末、年度始めのお忙しい時期かと存じますが、教育委員の皆様のご出席をお願いいたします。

本件につきましては、後日、改めてメールでご案内文を送付をさせていただきます。ご都合により欠席される場合は、メールへの返信をお願いいたします。

説明は以上です。

（丹宗教育長）
ただいまの件についてご質問ございませんでしょうか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

　それでは、よろしくお願いをいたします。
　ほかございませんか。
　　　　〔「なし」と呼ぶ者あり〕

日程４　提出議案

（丹宗教育長）
　続いて、第３４号議案『教職員の人事異動（管理職）の内申について』です。
　本案件については、会議冒頭で承認いただきましたとおり非公開となりますので、傍聴者は退室をしてください。また、本議案に関係のない事務局職員についても退室をお願いします。
　　　　〔傍聴者及び事務局職員退室〕

【非公開】

（丹宗教育長）
　では、ここで会議の非公開を解きます。
　これで２月の定例教育委員会を閉会いたします。

　終了時間　午後４時２分